

AALA ニュース 104号 内容紹介

ウクライナ特集第5弾

編集部

AALA ニュース 104号の内容を紹介します。今号はウクライナ特集第5弾として、10本の記事が掲載されます。

停戦に向けてかすかな灯りが見えてきたようにも見えます。とにかく因縁浅からぬ隣人同士の殺し合いはやりきれません。一日も早く収まるよう祈るばかりです。ロードマップへの足がかりが、いくつか提案されているようです。期待しましょう。

1. キッシンジャーの予言「ウクライナ危機を解決するために」

今、キッシンジャー元米国務長官の提案が注目を浴びています。2014年の「マイダン革命」の時、ワシントン・ポストに寄稿したものです。ここに再掲します。

2. トマス・グラハム他「プーチンと和解する方法」

「フォーリン・アフェアーズ」の3月21日号に掲載されたものです。もう1ヶ月以上前の論文ですが、シニカルなタッチで「リアル・ポリテイク」の世界の論理を展開しています。

ゲーム感覚で外交的解決の道すじを切り開いていくところは、ある種の小気味よさを感じます。

3. ロシアの研究者たちの抗議声明（紹介）

「ウクライナとの戦争に反対するロシアの研究者および科学ジャーナリストの公開書簡」というのが正式名称です。現在も閲覧可能ですが、ロシア語です。小松崎栄さんの紹介です。

<https://www.science-diplomacy.eu/wp-content/uploads/2022/02/%D0%9E%D1%82%D0%BA%D1%80%D1%8B%D1%82%D0%BE%D0%B5-%D0%BF%D0%B8%D1%81%D1%8C%D0%BC%D0%BE-%D1%80%D0%BE%D1%81%D1%81%D0%B8%D0%B8%CC%86%D1%81%D0%BA%D0%B8%D1%85-%D1%83%D1%87%D0%B5%D0%BD%D1%8B%D1%85-%D0%B8-%D0%BD%D0%B0%D1%83%D1%87%D0%BD%D1%8B%D1%85-%D0%B6%D1%83%D1%80%D0%BD%D0%B0%D0%BB%D0%B8%D1%81%D1%82%D0%BE%D0%B2-%D0%BF%D1%80%D0%BE%D1%82%D0%B8%D0%B2-%D0%B2%D0%BE%D0%B8%CC%86%D0%BD%D1%8B-%D1%81-%D0%A3%D0%BA%D1%80%D0%B0%D0%B8%D0%BD%D0%BE%D0%B8%CC%86.pdf>

4. ウェス・ミッチェル「ウクライナ中立化の条件」

「フォーリン・アフェアーズ」の3月17日号に掲載された論文です。ウクライナはNATO非加盟で行くしかないことを、「ロシアとプーチンが信用出来ない」ことを根拠にして主張しています。

5. 環球時報「ウクライナ危機と悪役アンクルサム」

環球時報は、時々変化球を投げてきます。この記事はキッシンジャーから始まり、ミアシャイマーへと続き、最後はジョージ・ケナンの予言で締めます。

6. 清水学「ウクライナ学習会への問題提起」

3月25日日本 AALA の「ウクライナ学習会」で行ったテーマ講演のレジメです。少々長いのとパワーポイントのため読みにくいのですが、大変ためになる内容です。

7. 聴濤 弘「ウクライナに関するレジメ」

同じ学習会でテーマ講演を行った聴濤弘さんの「講演レジメ」です。わかる範囲でレジメから文章起こしましたが、それでもわかりにくいところがあるかも知れません。ご容赦願います。

8. 吉川顯磨「戦争を泥沼化する武器供与の拡大」

9. 田中靖宏「ロシアの友へ・反戦平和の手を結ぼう」

10. 鈴木頌「ウクライナ：緊急課題と長期課題」

上記三記事はいずれも会員などからの投稿です。日本 AALA の意見ではありません。